

神奈川県における「神経芽細胞腫検査」

角 田 昭 夫
(神奈川県立こども医療センター)

神奈川県においては「神経芽細胞腫検査」を、全国に魅けて、全県実施した。そのシステムに関しては他資料¹⁾にゆずり、実施状況を中心に以下のべる。

1. 全体の実施状況(表1,2)

表1 57年度神奈川県神経芽細胞腫検査数

地域 検査	県 域	横浜市	川崎市	横須賀市	合 計	%
一次検査	7,155	10,114	809	1,672	19,750	
二次検査	214	333	17	30	594	3.0
精密検査	5	4	4	1	14	0.07
患 児	0	0	0	0	0	0

表2 58年度(4/1~12/31)神奈川県神経芽細胞腫検査数

地域 検査	県 域	横浜市	川崎市	横須賀市	合 計	%
一次検査	14,295	16,473	6,807	2585	40,160	
二次検査	376	360	123	28	887	2.2
精密検査	4	2	11	2	19	0.04
患 児	0	0	0	0	0	0

§ 開始より58年12月31日まで

総検査数 59,910
 二次検査 1,481(2.47%)
 精密検査 33(0.05%)
 患 児 0

開始より、58年12月31日まで、1年余の間、60,000件に及ぶ検査を施行したが、神経芽細胞腫患児は1例も発見されていない。神奈川県下の乳児の健康という見地からすれば喜ばしい限りであるが、システムに関わるものにとっては、いささか意欲を喪失させる結果に終わっている。

戸紙配布期間と回収期間がずれるため、厳密な回収率とはいえないが、同一期間(58年4月～

12月)中の汙紙回収数/汙紙配布数を計算すると

県域 79%, 川崎市 65%, 横須賀市 78%となり、必ずしも回収率は不良ではない。なお横浜市のみは4カ月健診の一部を診療所医師が負担しており、汙紙配布もこゝで行われているため、その数が把握出来ない。

二次検査率、精密検査率は全期間を通じてみるとそれぞれ2.47% および0.05%である。57年と58年の比較では二次検査率が3.0→22% 精密検査率が0.07→0.04%と、いずれも減少している。

2 精密検査例

こども医療センターは、県域および横浜市の精密検査機関を担当している。この2地域に15例の精密検査児があり、うち13例(87%)が来院した。以下その survey を示す。

年令は6～14カ月。性別は男児11例、女児2例。判定から来院までの日数は2～19日である。13例中1例を除く12例は、1～3回の外来通院のみで、神経芽腫を否定された。1回のみ来院例は、検査結果を電話で告げている。

入院例は13例中1例のみ、11カ月男児で、来院後の尿再検でも、VMA/CrがCut off 値を上まわり、更に超音波エコー検査でも後腹膜腫瘍が疑われ、入院となった。しかし臨床症状、XCTなどの他の検査および尿の再再検査により疾患は否定された。

精密検査に要した費用を算定した。通院2日、胸部X線撮影(2方向)、指導料などで、殆んどの例が500点(¥5,000)以下であった。上記の入院例は、7日入院で¥150,230の費用が算定されたが、横浜市民で、1才未満の医療費家族負担0のため、家族の支払いは、おむつ代3,200円のみであった。

まがりなりにも一時期わが子にがんの疑いを持たれることによる家族の心痛の解消の問題もあるが、当センターでは適切な医師の指導と、指導相談部保健婦の努力により、解決している。

3 検査で発見し得なかった神経芽細胞腫例

同上期間中、こども医療センターでは3例の神経芽細胞腫例を治療した。

1例は58年2月当時3才で、年令的に検査システムから外れていた。2例目は発症時もVMA陰性例であった。3例目は東京都大田区から、最近転居したため、検査システムにのらなかったものである。

この第3例は、尿中VMA強陽性で、来院時すでに眼窩転移のある進行性で、検査を受けてさえいれば、早期発見、早期治療が可能だったため、惜しまれる1例である。

この他、垂鈴型縦隔神経芽腫で、他施設へ入院した時も尿中VMA陰性のため、検査では発見出来なかったという情報²⁾も得ている。

神経芽細胞腫は公費負担制度の適用になる疾患であるので、行政としても発生を把握し易いから、別途調査の必要がある。

4 今後の展望

58年9月、神奈川県庁内で関係者の打合わせ会が開かれた。その時の議題であり、新たな展望

を示す次の2点をのべる。

(1) 保健所での一次検査実施：59年度以後、保健所の試験検査業務の集中化(6集中保健所の設定)を待って、神経芽細胞腫検査の一次検査の保健所実施を検討する。

(2) 県域でも横浜市と同様、診療所で汙紙配布を希望する場合は、希望に沿えるよう検討する。

なお、59年3月15日、関係者による打合わせ会議開催が予定されている。

〔資料〕

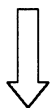
(1) 神経芽腫検査講習会テキストブック

(2) 角岡秀彦ほか：神経芽腫マス・スクリーニング, 小児外科 15:1371-1382, 1983.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



開始より,58年12月31日まで,1年余の間,60,000件に及ぶ検査を施行したが,神経芽細胞腫患児は1例も発見されていない。神奈川県下の乳児の健康という見地からすれば喜ばしい限りであるが,システムに関わるものにとっては,いささか意欲を喪失させる結果に終わっている。ろ紙配布期間と回収期間がずれるため,厳密な回収率とはいえないが,同一期間(58年4月~12月)中のろ紙回収数/ろ紙配布数を計算すると

県域 79%,川崎市 65%,横須賀市 78%となり,必ずしも回収率は不良ではない。なお横浜市のみは4ヵ月健診の一部を診療所医師が負担しており,ろ紙配布もここで行われているため,その数が把握出来ない。

二次検査率,精密検査率は全期間を通じてみるとそれぞれ2.47%および0.05%である。57年と58年の比較では二次検査率が3.0→22%精密検査率が0.07→0.04%と,いずれも減少している。